



CONTENTS

**臨床研修病院として
さらなる充実を目指します**

新任のご挨拶

**次世代がん治療「BNCT」の
専門医療施設準備が進行中**

(整形外科) 手外科専門外来のご案内

(心臓血管外科) 本院での下肢静脈瘤治療の現況

医療連携室からのお知らせ

編集後記

写真: 林檎の花

臨床研修病院としてさらなる充実を目指します

本院には、昭和43年の臨床研修制度の創設以降約50年間に近隣医療機関及び全国に数多くの臨床医を輩出してきた実績があります。近年では基幹型臨床研修病院として8年連続のフルマッチ（一般プログラム）であり、全国的にも注目される臨床研修病院となっています。

本年3月2日、NPO法人卒後臨床研修評価機構による第三者評価を受審したところ、同機構が定める認定基準に達していると評価され認定証を受けることができました。特に大学病院という大きな組織でありながら、アットホームな雰囲気 で病院全体として研修医を育てようという姿勢は高く評価されました。本院における研修プログラムとその質の向上のためのこれまでの取り組みの賜と考えています。今回の受審結果を契機として、臨床研修システム及び研修プログラムの改善を推し進め、臨床研修病院としてさらなる充実を図る所存です。



臨床研修室
室長
ね お ま さ し
根尾 昌志

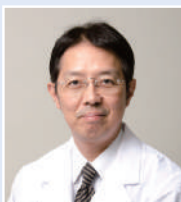
新任のご挨拶

糖尿病代謝・内分泌内科

いまがわ あきひさ

科長 今川 彰久

【平成28年12月1日着任】



当科の診療対象となる疾患には、糖尿病、脂質異常症、痛風、甲状腺機能低下症といったcommon diseaseから、1型糖尿病や下垂体機能異常などの専門的な疾患までが含まれます。いずれも病診連携のシステムを利用して地域の先生方とともに診療にあたっています。どうぞお気軽に患者さまをご紹介ください。お待ちしております。

Profile

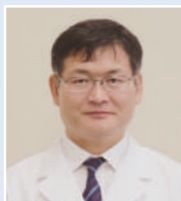
- 専門分野
糖尿病、代謝疾患、内分泌疾患
- 資格
糖尿病専門医・指導医、内分泌代謝科専門医・指導医、総合内科専門医
- 略歴
平成元年 新潟大学医学部卒業
平成15年 大阪医科大学 第一内科 助手
平成21年 大阪大学 内分泌・代謝内科学 講師
平成26年 大阪大学 内分泌・代謝内科学 准教授
平成28年 大阪医科大学 内科学I教室 教授

神経内科

あらわか しげき

科長 荒若 繁樹

【平成29年4月1日着任】



日常診療で、頭痛、しびれ、力が入らない、歩きにくいといった訴えに遭遇されることが多いと思います。診断に迷われるケース、治療方針を検討したいケースなど対応させていただきますので、ご依頼ください。スタッフ一同患者さまひとりひとりに適切な治療法を見つけ出せるよう努力する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

Profile

- 専門分野
神経内科学、神経変性疾患（パーキンソン病など）
- 資格
日本神経学会専門医・指導医、総合内科専門医・指導医
- 略歴
平成3年 山形大学医学部卒業
平成8年 山形県立中央病院救命救急センター 医員
平成11年 トロント大学 神経変性疾患研究センター
ポスドク
平成14年 山形大学医学部 第3内科教室 助手
平成22年 山形大学医学部 第3内科教室 講師
平成28年 山形大学医学部 第3内科教室 准教授
平成29年 大阪医科大学 内科学IV教室 教授

次世代がん治療「BNCT」の専門医療施設準備が進行中

ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）共同医療センター設置準備室

BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）は、ホウ素と中性子の核反応によってがん細胞を破壊する治療法です。

あらかじめ投与したホウ素薬剤は、がん細胞に選択的に集積します。中性子線の照射により、ホウ素の原子核からヘリウム核とリチウム核が生成され、これらによってがん細胞を破壊します。放出される粒子の飛程は、細胞のほぼ直径に相当するため、ホウ素を取り込んだがん細胞を選択的に内部から破壊することができ、周囲の正常組織をほとんど傷つけることなく、がん細胞を死滅させることが可能になります。

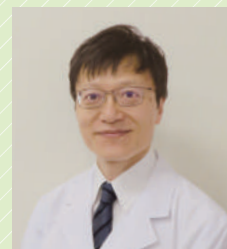
そのため、初発・単発のがんのみならず、臓器全体に広がったがん、転移性がん、難治性がんにも効果が期待できるほか、通常の放射線治療を行った後でも治療可能で、再発がんの治療にも大いに期待されています。

建設工事は順調に進んでおり、平成30年3月竣工、同年6月の開設、平成31年8月の診療開始を目指します。完成すれば、地上3階、地下1階、共同利用型のBNCT専門医療拠点となります。



整形外科

手外科専門外来のご案内

よこた あつし
整形外科 横田 淳司

本院整形外科では、体幹から四肢まで広い範囲の多種多様な疾患・外傷に対してレベルの高い医療を提供するため、部位別の専門班に分かれて診療しています。

私たち手外科班は上肢の神経障害と肘関節から手指までの疾患・外傷を担当します。初診外来を火・木曜日に、予約制の専門外来を月曜に行っています。

内視鏡・関節鏡視下手術など、より低侵襲の手術法を積極的に導入している事が当班の特徴です。最近では手根管症候群に対するエコー支援下の最小侵襲鏡視下手術、母指CM関節症に対する従来法より低侵襲の手術、関節リウマチによる手の変形に対する矯正手術（写真）などに力を入れております。手部に発生した軟部腫瘍に対しては、顕微鏡下に微小外科（マイクロサージェリー）のテクニックを用いて切除術を行い、合併症も少なく良好な成績を上げています。

手外科疾患には上肢の先天性発育障害や握り母指、強剛母指といった小児特有の疾患も含まれますが、当班はこの分野でも幅広く対応いたします。

ご紹介いただく際は本院医療連携室にてご予約をお願い申し上げます。地域の先生方のニーズにきめ細かくお答えできるよう努力してまいりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

リウマチによる手指MP関節尺側偏位
(左 術前 右 術後 患者さまの承諾を得て掲載)

初診担当表

	月	火	水	木	金
午 前	再診外来（予約制） 横田 淳司、大野克記	初診外来 横田 淳司		初診外来 大野 克記	

心臓血管外科

本院での下肢静脈瘤治療の現況

おざわ ひでき
心臓血管外科 医長 小澤 英樹

下肢静脈瘤は日常よく見られる病気で、足の「だるさ」や「かゆみ」の原因にもなります。高齢者や女性に多く、社会の高齢化に伴い患者数は増加しています。治療法は従来の手術的加療に加えて血管内治療が保険適応となり、個々の患者さまに最適な治療法が選択可能となりました。

本院でも多様なニーズに応えるため、下肢静脈瘤外来を開設致しました。

高周波血管内焼灼術の導入

現在の手術法は、簡便さと安定性に優れた血管内焼灼術が主流となっています。焼灼法にはレーザーと高周波があり、高周波焼灼の方が疼痛や皮下出血が少なく、術後のQOLが良好です。本院では最新型高周波血管内焼灼カテーテル（Closure FAST）を導入し、伏在静脈型静脈瘤の手術が、より少なく小さな創部で施行可能となりました。

患者さまの様々なニーズへの対応

通常の手術はTLA麻酔（局所麻酔）単独で行われますが、手術に対する不安感や肢位固定への困難感を伴いがちです。本院では、患者さまの精神・肉体的負担をなくすために全身麻酔下の手術も可能です。「日帰り手術」を謳う医療施設もありますが、手術当夜の自宅での愁訴は多く、超短期入院（1～2泊）を基本とすることで、患者さまの不安を解消します。総合病院である本院では、他疾患のある患者さまにも即時的・専門的治療が可能です。専門外来は月・火・木・土曜に行っております。軽症の方から重症の方まで幅広く診療しておりますので、是非ご紹介ください。ご紹介の際は医療連携室を通してご予約をお願いします。

医療連携室からのお知らせ

逆紹介・かかりつけ医紹介を積極的に取り組んでいます

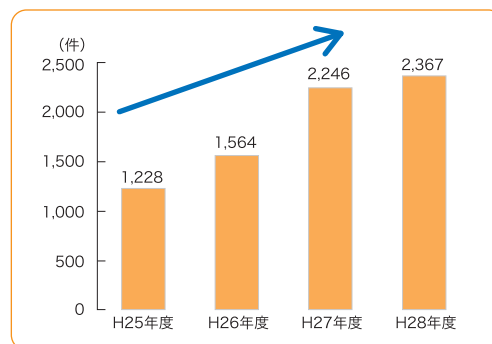
昨年4月、医療連携室の移動に伴い患者さま対応窓口を一新いたしました。患者さまに連携の状況をよりご理解いただけるよう、現在正面玄関に掲示しております「連携医療機関登録一覧パネル」を医療連携室にも設置いたしました。地域の医療機関マップや各種パンフレットなど、逆紹介やかかりつけ医相談時にお気軽にご覧いただけるようにしています。

【逆紹介カウンター】



窓口での「逆紹介・かかりつけ医紹介」を中心とした逆紹介対応件数は年々増加し、平成28年度も大きく件数を伸ばしています。今後も各診療部門と地域の医療機関との連携を支える役割として「逆紹介・かかりつけ医紹介」による医療連携を強化していきます。

【逆紹介窓口対応件数】



「連携医療機関登録制度」にご加入いただきました医療機関さまにおかれましては、登録時にいただきました情報を逆紹介時に活用させていただいております。「院長名」「所在地」「診療時間」「設備・機能」などご変更がありましたら、医療連携室までご一報いただきますようお願いいたします。

編集

後記

あたたかい日差しが差し込みながらも、つめたい風が流れるとき、

ふと思いつくことがある。

突然の母からの電話。

「お父さんがどうしても声が聞きたいって、この声がよみがえる。」

認知症の父、ほとんど会話ができなかったこの

時期の父がそんなことを言うはずがない。不思議に感じた。

両親は二人暮らし。母は父と一緒に自宅から気の遠くなるような距離をひたすら歩き続け、今スベンチに座っているらしい。

「あなたの声を聞いたら落ちつくかと思って」

もう深夜だというのに。徘徊?! どうしたらいいか、分からない。

母は父に付き添い、何キロもの道のりをただただ歩き続けた。

「お父さんが行くと言って聞かないのよ」

助けを求められている。電話口の向こうおよそ600キロ離れた先。どうしようもない。

力になれない。言葉が出てこない。

母の父への深い愛情を感じた。話を聞いて涙した。

夫婦の絆、深い愛情。無条件の愛があった。

「父さん、母さんを大切にしてくれ」言えたのは、ただひとつそれだけだった。

数年後、父は逝った。

このあたたかな春の陽射しと風が、また再び届けてくれる。春風の中で、母の愛が脳裏に

よみがえる。(M・M)

医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください